

あきる野市議会  
自由民主党

# 志清会だより 第36号

～あきる野の未来に責任を持ち、  
市民と協働して歩む～

※ 志清会は、あきる野市議会では志を同じくする9名の議員による政策グループです。

会長 幹事長 会計



ほりえ たけし  
堀江 武史  
漕上42歳④



むらの えいいち  
村野 栄一  
二宮東53歳②



なかむら かずひろ  
中村 一広  
油平51歳①



こごもり としひと  
子籠 敏人  
菅生46歳③



あまの まさあき  
天野 正昭  
小和田63歳②



なかじま ひろゆき  
中嶋 博幸  
留原53歳②



くぼしま せいじ  
窪島 成一  
平沢65歳①



ひはら しょうご  
日原 省吾  
野辺54歳①



うすい けん  
臼井 建  
秋留51歳①

※上段：氏名 下段：住所、年齢、当選回数

## 3月議会速報!

# 34億円は「標語」です!!

## 追い込まれて遂に言い逃れ!

村木市長の無責任な言動が止まりません。どうか市民の皆さん、危険をはらんだこの現実を知ってください。「34億円は標語ですから」。3月18日に行われた市議会の一般質問で、村木市長は「区画整理の全面見直しで、34億円を市民の暮らしに」と約束していた自身の「公約」の実現可否について問われると、「それは選挙の標語ですから」と、さりと言いのけました。公約を標語と言い換えたこの発言に、本会議場では、どよめきや批判の声が飛び、啞然としてしまいました。区画整理を見直せば34億円の財源が生み出され、それを市民のために使うとバラ色のことを言って当選した市長として、無責任極まりない発言と態度です。その後も本人は全く悪びれた様子はありません。



市長選挙ビラ第2号

### <全面見直しでその34億円を生み出すとした引田駅北口の土地区画整理事業>

市長は昨秋の就任直後に事業をストップさせ、有識者による「検討会議」を立ち上げ、事業費の縮減などを諮問。市長はこの検討会議の判断を受けて速やかに事業を再開すると繰り返し述べていました。同会議は3回開催し、約2億2千万円の縮減策をまとめて、3月12日に市長へ答申しました。34億円の1割にも満たない結論に、「34億円の約束は果たされないのでは」と問うた質問に、「34億円は標語であり、それが一人歩きしただけ」と、さも自分の責任ではないとの態度を示しました。我々は許せません。しかも、自身がお願いした検討会議の結果についても、「尊重する」と述べるに止め、事業の再開については「関係者と相談して決めていく」として、検討会議の結果に沿って事業を速やかに再開させるとの方針を**一変**。市長として「独自の判断」を加える可能性を示しました。さらに議会で「その関係者とは誰だ」と問うても明らかにせず、公開で行われた検討会議から一転、まさに「密室」で決めようとしています。また、3月の議会ではこの検討会議の**委員選定**にあたって、市長を支持する**議員から推薦**があり加えていたことも明らかになりました。

### <公共交通の充実>

私たちは公共交通の充実を進めたいと考えており、市では現在、公共交通検討委員会で「公共交通空白地域」の解消に向けた手法などについての議論を丁寧積み重ね、現在、タクシーなどを活用した実証実験を行っています。これに対し、市長は市長選公約に沿って、新年度予算案でるのバスを1台増やして実証実験を行う方針を表明。この新たな方針については同検討委員会委員から「唐突だ」との意見が出ています。さらに、3月議会で市長は、1台の増車どころか、この先2台3台としていく考えを示したほか、市側の実証実験のやり方についても不透明なところが多いと強く感じました。加えて、市側の答弁からは今後の議論によっては、るのバスを根本的に考え直す可能性も示されました。このような点からも私たちは「**そもそも公共交通検討委員会での議論や制度設計が十分になされていない**」と判断し、るのバスを1台増車しての実証実験を行うことは、判断としても**時期尚早**と考えています。ところが、市長を支持する議員からは、「**とりあえず買って、どのように実証実験を行うかなどの制度設計は時間をかけて考えれば良い**」という姿勢が示されました。これは、私たちは税金の使い方として間違っていると考え、新年度予算に対する修正案を提出し、委員会では賛成多数で可決されました。これに対し、これを不服とした市長は、市長が持つ「再議権」というものの行使を強行。しかし、議会では市長の再議に対して疑問の声が投げかけられ、修正案が再度可決されました。

# 村木市政、停滞と混乱！ 公約は大きく後退！

3月議会では、村木市長の公約が大きく後退したことが鮮明になりました。市民の不安を煽り、信念が感じられない市長であることが明確になりました。私たちは市長を攻めることは本意ではありません。市政を停滞・混乱することなく、市民サービスを円滑に行えるような環境を早く取り戻したいと思っています。今後ともご支援ご理解のほど、よろしくお願い致します。また、各市議の主張の一端をご紹介します。(天野議員は議長のため、一般質問は致しません。)

※内容は3月25日時点

## 武蔵引田駅北口土地区画整理事業について 【堀江 武史】

Q 3月13日、引田地区を住みよくする会(地権者)の方々が「なぜ、商業系企業誘致についての意向調査を行ったのか？検討会議ではスーパーの誘致の中止について否定されているのに有識者に失礼ではないか。※」と市長に質問したところ、「議会の会派から言われたので調査した。書面だと大ごとになるので電話でやった。」との回答だった。「会派とは誰ですか？自民党と公明党ではないことは確か。あとは、未来、共産党、くさしぎの3つしかない。」「市長、調査をして、どうするんですか？」

A 関係者と相談して決めます。

Q 関係者とは誰ですか？ A 差し控えます。

Q なぜ、言えないんだ。透明性がないじゃないか、おかしい。

※検討会議では、商業系企業誘致の中止案については採択しないという結論が出ている。

区画整理の

賛同率

98.4%

## 財政健全化について 【子籠 敏人】

QA  
市長は財政の健全化や行政改革を進めると訴えて当選したが、財政健全化緊急計画をつくらなくてもつくり、今後つくる方針を示すも「緊急」の文字は消えた。そこで、しっかり数値で目標を示してもらいたいと質問をしたところ、市長は経常収支比率について「西多摩の平均値にしたい」と答弁。重ねて「それは現在の任期中の達成か？」と質問したところ、「そうだ」と答弁。直近データの平成30年度決算ベースで見ると、西多摩平均値とは「92.6%」です。あきる野市の現状は、「98.6%」であり、6ポイントも改善させねばならず、この実現のためには、相当市民にも痛みを伴う行革を行わなければなりません。何の戦略もなく簡単に言うてしまうこの答弁からも、市長は数字を分かっているとは到底思えません。

経常収支比率

92.6%

が目標？

## るのバス、土地区画整理事業について 【中嶋 博幸】

### <意見>

○土地区画整理見直しを自分で判断できなくなった市長は、専門家に委ねその報告をみて、すぐにでも再開すると約束したが、結果が気に入らないと不満を言っている与党議員からの圧力でまた市長は迷走している。これは公正・公平性に反している。人生設計も財産も侵害されている市民を早く平穏な生活に戻すことが責務である。

○財源は土地区画整理を見直して捻出という公約は、結果的に大して捻出できず、むしろ負担のほうが増えそうな状況に陥っている。災害や感染症対策で歳費が膨らむリスクが高い状況下で、実験のためだけに乗車率が低い「るのバス」を高額予算掛けて1台増車するのは時期尚早である。同じルートで実験するならば今ある車両で休日などを試みるべきであり、優先すべきは、るのバスさえも走っていない公共交通空白地の対策であるし、とりあえずバスを買ってから細かい事を考えるのではなくしっかり検討委員会で制度設計を調査してから補正予算などで提出すべき。



るのバス

## 都市計画道路の整備について 【窪島 成一】

Q 秋多都市計画道路3・3・4号線(森山)と3・4・5号線(平沢↔伊奈)の両線については、秋留台地の中央部の東西幹線として、市内各地域を結ぶ主要幹線である。また、隣の福生市で進めている都市計画道路を經由して、国道16号線に結節する機能があるなど、周辺の道路整備の進捗と併せて、相乗効果を生むためにも早期の整備が望まれる。そもそも、この都市計画道路は、市内や、広域的な幹線として、発生する交通量をコントロールするものではなく、災害の被害抑制や、発災時の復旧、市民の日常生活が向上する施設の立地、ライフラインの供給など、重要なインフラである。市長は、都市計画道路など、市の基盤インフラの整備にあたって、これまでの整備と今後の整備の在り方について、どのような考えをお持ちか伺う。

A 都市計画道路は、東京都からの手厚い補助があるのでやります。



都市計画道路3・3・4号線

## <市長公約（抜粋）の現状>

- 土地区画整理事業：「凍結できず」、「34億円を市民の暮らしにまわすことは出来ませんでした」
- 財政健全化緊急計画：「緊急」でない「財政健全化計画」へ変更。（新年度予算反映できず）
- 市長車：廃止したものの、損害賠償請求を受け、約507万円を支払うことになります。
- 退職手当廃止：退職手当組合に手続きを依頼したが、諦めました。来年度以降に持ち越して検討中。
- 小中学校エアコン設置：既に選挙前の昨年夏、前市長が指示済。前市長のままでも実現していた。

### 市長車廃止後の状況について 【ひはら 省吾】

今回のポイントは、市長車廃止後、市職員に運転させている状況の改善、市職員に市長同乗による運転の負担を減らせないか？の2点です。

Q 現在までの市長が乗る庁用車における市職員の運転状況は。

A 日数は32日、回数は36回、運転手は述べ36人。会議等の随行を含んだ時間は合計で92時間25分となっている。

Q 市長本人が自家用車を使用して公務に当たるのは、公職選挙法の寄付行為の禁止に抵触している可能性があるのを知っていたか。

A 知らなかった。

Q 市職員が運転することは、通常業務に支障がある上、事故の責任問題もある。

市長自らの自家用車使用も問題があると考え。運転手を委託するなどによる経費削減策などは考えられないか。

A 必要とあれば検討していく。



市長が使用する庁有車

### 産業の振興について 【中村 一広】

Q 12月議会の際、選挙公約にも関わらず、全部の事業所2430件の方を訪問して、それぞれの意見を聴くのは無理だから、商工会の役員、JAの役員、観光協会等の意見を聴くという答弁だった。また、商工会の新年賀詞交歓会のあいさつの中で工業部会からも意見を聴くということも話していた。現在、あきる野市の地域経済は、新型コロナウイルスの関係で飲食業、観光業をはじめ様々な業種に大きな影響が出ている。そんな厳しい現状があるのです。こんなときだからこそ、商業、工業などあらゆる事業所から生(なま)の話の聞く必要があると思うが、市長いかがか。

A 金融機関からは、融資のことなど、どんな状況なのか話は聞いている。



### 財政健全化、秋川高校跡地活用について 【白井 建】

Q 「区画整理を止めて34億円を市民の暮らしにまわす」という市長の最大の公約は実現できませんでした。あなたを信じた市民に説明してください。

A 「34億円」が一人歩きしている。それは標語だ。

Q 秋川高校跡地等へ特養の誘致を反対する陳情が2件、市議会で採択された。①市長はこのことをどのように受けとめているのか。また、②今後の同跡地の活用について、市長はどのようにかじ取りをするのか？

A ①市議会の採択は遺憾である。②都が誘致すると考える。

Q 秋川高校跡地は、市長が特養を誘致したことで都との調整などがストップした。本来ならいつ整備に着手する予定であったのか、それが現在、どこまで先送りになっているのか。

A (市長が止めなければ)令和4年の整備着手予定だったが、令和5年以降(令和9~10年ごろ)の着手に変更



旧秋川高校メタセコイア

新しい市長が誕生して半年を迎えようとするところ、市民の中には不安もあるが、期待をしていることもあるのではないかと思います。改めて選挙結果を振り返ると、村木市長は13,786票 澤井前市長は13,698票で88票差でした。この結果を踏まえれば、村木市長は市民の声を丁寧に聞く姿勢を大切に、その上で市政運営にあたるのが必至ではないかと感じます。しかし選挙で訴えた公約やリーダーの姿勢においては、当初から実現が不可能な事や、事実と異なる内容を多分に掲げておりました。また就任後の公の会議においても市役所内部で検討がなされていない事においても、自らの思い込みで発言を繰り返すなどが目立ち、そのような不用意な発言をした後は、記録として残る議事録からの削除の申し出をされ、仕方がなく議会側が取り消しを承諾する場面が多く、現場では毎回のように混乱をきたしています。ある意味、リーダーのトップダウンが必要な局面もありますが、独裁者となってしまえば民意と異なる市政の運営となってしまいます。我々会派はひとりとして、批判をしたい訳ではありません。ただ事実を正直に今後も伝える責任があるだけなのです。

【村野 栄一】

# 武蔵引田駅北口土地区画整理事業の経緯と市議会(会派)の賛否

武蔵引田駅北口土地区画整理事業の起こりは昭和63年に市の総合計画に位置づけられたことでした。平成13年には、地元の方々と意見交換を始め、都市計画決定等を経て、平成28年に事業がスタートしました。その後地権者への説明を行い、令和元年5月に工事が始まりましたが、10月、新市長が工事を中止しました。12月に再開したものの、中止による影響は大きく地元住民は不安な状態が続いています。

武蔵引田駅北口土地区画整理事業の経緯		同事業における市議会(会派)の賛否(抜粋)						
秋川市総合計画に、引田地区の区画整理事業を明記	昭和63年	これまで、区画整理事業の予算等に <b>反対</b> を続けてきた会派(共産党等)が新市長就任後、 <b>賛成へ転換</b>						
あきる野市総合計画に引田地区の区画整理事業を明記 引田地区の町内会自治会と意見交換を始める	平成13年							
都・市が都市計画決定	27年							
都が事業計画を認可、市が事業計画を決定 <b>土地区画整理事業がスタート</b>	28年	武蔵引田駅土地区画整理事業 自志 公明 未来 共産 くさ あ自 ※						
換地設計(地権者への個別説明などを実施) 説明会を60回開催(参加人数のべ1986人)		H28 特別会計予算(H28.3月) ○ ○ × × × × 可決						
地権者への意向調査(換地申出書の提出98.4%)		H29 特別会計補正予算(H30.3月) ○ ○ × × × 可決						
	28年	H30 特別会計予算(H30.3月) ○ ○ × × × 可決						
		H29 特別会計決算認定(H30.9月) ○ ○ × × × 可決						
		H30 特別会計補正予算(H30.9月) ○ ○ × × × 可決						
		H30 特別会計補正予算(H30.12月) ○ ○ × × × 可決						
		H31 特別会計予算(H31.3月) ○ ○ × × × 可決						
		R元 特別会計補正予算(R1.6月) ○ ○ × × × 可決						
<b>工事スタート</b>	令和元年	H30 特別会計決算認定(R1.9月) ○ ○ × × × 可決						
5月 埋蔵文化財発掘調査着手		事業推進を求める陳情(R1.9月) ○ ○ × × × 可決						
6月 下水道工事着手		事業の早期再開を求める陳情(R1.12月) ○ ○ ○ ○ ○ 可決						
7月 街区の整地及び排水工事着工		市議会で「事業早期再開を求める陳情」を <b>全員の賛成</b> により採択しました。						
9月 相談事務所リース契約		R元 特別会計補正予算(R2.2月18日) ○ ○ ○ ○ × 可決						
10月15日 村木市長就任 本年度発注済みの区画整理事業に関する全ての工事等を一時中止		R2 特別会計予算(R2.3月25日) ○ ○ ○ ○ × 可決						
10月28日 都への補助金返還が分かり埋蔵文化財発掘調査のみを再開								
11月30日 地権者を対象に事業見直し説明会を開催								
12月17日 全ての工事について一時中止を解除								
※「自志」=自由民主党志清会 「公明」=公明党 「未来」=明るい未来を創る会 「共産」=日本共産党あきる野市議団 「くさ」=くさしぎ 「あ自」=あきる野市議会自民党	2年							